

MUSEUM PRESS

鳥取県立博物館ニュース

Newsletter of the Tottori Prefectural Museum

SEPTEMBER 2009 No. 8
平成21年9月発行

8



前田昭博《白瓷面取鉢》 2003年 磁器 当館蔵

企画展 11月21日(土)～12月20日(日)

「前田昭博 白瓷の造形」…………… 2

企画展 10月10日(土)～11月8日(日)

「挑戦！ 頭脳パズルボックス」…………… 3

企画展 平成22年1月16日(土)～2月14日(日)

「新収蔵品展」—歴史系学芸員のオススメ100選— …… 3

[自然] 観察ガイド「コケスポット・栗谷周辺」……………4
資料紹介「ダニ類のパラタイプ標本」

[人文] 資料紹介「太白、月を貫く—『時範記』に記されなかった天体现象—」……………5
コラム「江戸時代の地誌にみる古墳」

[美術] コラム「山を描いた画家 伊谷賢蔵」……………6
新収蔵品紹介「前田寛治《赤い裸婦》」
美術常設展

[山陰海岸学習館]山陰海岸のタカラガイ……………7

[お知らせ]平成22年の春、山陰海岸学習館の展示室がリニューアルオープンします。
講座・観察会・毎週土曜はアートの日！……………8



前田昭博 白瓷の造形

「瓷は本来、土を焼いて作る陶器に当てる文字で、磁器には磁が正しいのでしょう。でもぼくは、陶器のような温もりのある磁器を作りたい。そんな思いを籠めて瓷を使っています」(高井有一「山陰の白い壺」より・2006年筑摩書房刊『夢か現か』所収)

ここに引用したのは、近年その作品が国際巡回展にも出品され、若くして紫綬褒章を受章(2007年)するなど現代日本を代表する陶芸家のひとりとして評価される前田昭博(まえた・あきひろ 1954年～)が、自作のタイトルに含まれる「白瓷(はくじ)」という用語について小説家から問われた際に語ったことばです。

八頭郡河原町(現・鳥取市)本鹿の山村に生まれ育った前田は、冬の山陰の曇りがちな空が生み出す柔らかな光が、物体の陰影をゆるやかに、優しい諧調にしていくさまに美を感じてきたといいます。この光に対する感覚は、生地・本鹿に築かれた工房で続けられる陶芸制作においても重要な理念として作用しています。小説家に語ったことばにもつながりますが、前田がしばしば語る「一般的な磁器がもつ硬質な、撥ね付けるような印象ではなくて、温もりのある、柔らかさを感じさせる磁器を追求したい」ということばの背景にはこの感覚が生きています。この感覚を作品タイトルとして、またコンセプトとして表現するために前



前田氏制作風景

田は、「磁よりも柔らかいニュアンスを感じる」という「瓷」を選んだのです。

当館では平成15年度より、鳥取県域の美術シーンの活性化と検証に寄与し、鳥取県の美術史形成の一翼を担うことなどをおもな目的に、鳥取県にゆかりのある優れた現存作家あるいは近年亡くなられた作家を選び、個展あるいはグループ展というかたちで、その作品と制作姿勢にスポットをあててきました。その平成21年度にとりあげる作家として私たちは、生地において30年以上白磁表現にかけてきた前田昭博を選びました。

大阪芸術大学在学中、制限された要素のなかに豊かさを秘める白磁の逆説的な可能性に着目した前田は、以降現在までほぼ一貫して磁器の表現を追求してきました。日々磁土と格闘するなかで前田は、「伝統と革新的創造」という現代の工芸に課せられた普遍的テーマと向き合いつつ、そこに個人作家としての問題意識を練り込もうとしています。そのような創作姿勢から生まれた、「光と影の造形」「用的立体」などと評されるその作品は、日本陶芸展や日本伝統工芸展などさまざまな公募展で高い評価を得、国内外の美術館などに収蔵されています。

本展では、「白に憑かれた陶芸家」とも言うべき前田の仕事、富本らの白磁器に魅せられた初期の仕事から覚醒期、そして近年の試みまで、小品を含め約100点の磁器作品によりたどりまします。これからさらなる活躍が期待される前田の陶業を、そのはじまりから振り返るのは時期尚早とも考えられますが、ひと繋がりのものでゆっくりと深められていくその創作の実像を理解するには、初期からのプロセスを丹念にたどる回顧展的な形式が最も効果的と考えます。本展を通じて、今その展開が最も注目される陶芸家の過去・現在・未来を見つめていただきたいと思います。また本年度は鳥取での展示に加え、大都市



前田昭博「白瓷面取壺」 1991年 磁器 当館蔵

圏での紹介も検討した結果、若き前田氏が研鑽を積んだ大阪の地で選抜巡回展を開催することとなりました。

うすくらい展示室のなかでスポットライトに浮かび上がり、柔らかい光を帯びて静かにたたずむ存在感ある瓷器たち。面取や捻(ひね)り、鎬(しのぎ)など多様な造形感覚を駆使した魅力豊かな白い瓷器たちが一堂に会するこの機会をぜひお見逃しなくご鑑賞いただければと思います。

(美術振興課 三浦 努)

【鳥取展】

- 会期:11月21日(土)～12月20日(日) 無休
- 会場:2階第2特別展示室
- 料金:個人当日/600円
個人前売・20名以上の団体/400円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障害のある方・要介護者等およびその介護者/無料
- 関連事業
- アーティストトーク
11月21日(土) 14:00～15:00 企画展会場(要入場料)
講師:前田昭博
- トークセッション
11月28日(土) 14:00～15:30 企画展会場(要入場料)
講師:金子賢治(東京国立近代美術館工芸課長)、前田昭博
定員:250名(申込不要・先着順)
- 企画展担当学芸員によるギャラリートーク
12月5日(土)、12月12日(土) 14:00～15:00
企画展会場(要入場料)
- アートセミナー「前田昭博の白瓷を分析する」
12月19日(土) 14:00～15:30 会議室(無料)
講師:三浦努(当館学芸員)
定員:40名(申込不要・先着順)

【大阪展】

- 会期:平成22(2010)年1月9日(土)～2月7日(日)
休館日:毎週月曜日
- 会場:アートコートギャラリー(大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F)
- 料金:一般当日/500円 学生/当日300円
学生前売・20名以上の団体/250円
中学生以下・70歳以上・障害のある方・要介護者等およびその介護者/無料
- 主催:アートコートギャラリー、鳥取県立博物館

挑戦! 頭脳パズルボックス

「数学」と聞くとどういうイメージを抱かれますか? 「難しい」とか、「抽象的」とか、苦手意識をもたれている方も少なくないでしょう。数学は、物理学や気象学など多くの実用科学の基礎であるばかりでなく、音楽や芸術といった文化活動とも関わりがあり、まさ



「立体4目並べ」～ゲームの理論～
「3目並べ」はよく知られたゲームですが、これは縦横4マスさらに4段ある64マスのゲームです。

に知識の基本です。この企画展は、「数学」という抽象的な印象のテーマを楽しく理解いただけるように、約20種の体験型展示で紹介します。とくに確率、トポロジー、コンピュータ、建築などの基本的なテーマを取り上げますが、子どもから大人まで楽しく学んでいただけること受け合いです。

一例として「未来を読む数学」コーナーの一部を紹介しましょう。過去の事例を集めて分析すると、これから起る未来を予測する手がかりとなりますが、2つのサイコロを振ったとき、出る目の合計はどうなるでしょう。1つのサイコロを振ったときは、目の数はみな1つずつなので、どの目も同じ確率で出るわけですが、2つのサイコロの目の合計となると違ってきます。しかし、ここ

にも法則性があります。皆さん、みつけることができますか? 実はゲームの達人と呼ばれる人たちは、この法則を知っているのです。この秋はぜひ、さまざまな「数学」に挑戦してみてください。

(学芸課 川上 靖)

■会期:10月10日(土)～11月8日(日) 無休

■会場:2階 第1特別展示室

■料金:個人当日/500円
個人前売:20名以上の団体/300円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障害のある方・要介護者等およびその介護者/無料

■関連行事

○講演会「21世紀を羽ばたくための学習法」

10月18日(日)14時～15時30分 講堂(無料)

講師:ピーター・フランクル

定員:250名(申込不要・先着順)

○体験コーナー「算数の宝箱」

会期中常時(展示会場内:要入場料)/鳥取大学地域学部数学教育学研究室の企画による算数を楽しみ体験するコーナー

新収蔵品展—歴史系学芸員のオススメ100選—

この展覧会では、平成以降に、新たに収蔵したり、ご寄贈いただいた考古・歴史・民俗部門資料の中から、皆様にぜひご覧いただきたい100点を一堂に展示します。今回は、その中で特にオススメの資料をちょっとだけご紹介しましょう。【野間義学著『古今童謡』】

『古今童謡』は、近世中期の鳥取藩士野間義学(?～1732)の著作で、18世紀以前の因幡地方のわらべうたや童遊を記録した資料です。同時期のわらべうた集は、全国的にみてもほとんど残っておらず、とても貴重なものです。



「古今童謡」いれいれごんぼの図

〔北垣国道旧蔵の刀〕

(銘・出羽大掾藤原国路)

北垣国道(1836～1916)は、但馬出身の旧鳥取藩士で、のちに京都府知事などを歴任した人物です。この刀は、美術品としての価値もさることながら、戦前には県内の中学校剣道大会の団体優勝刀として使用された歴史をもつ、郷土に縁の深い1点です。

〔土天神〕

「土天神」は天神さん(菅原道真)をかたどった土人形で、昭和の終わり頃まで、かつて伯耆地方(鳥取県中西部)を中心に初節句(3月)を迎える男子に母方の里から贈られました。この人形は、平成10年に三好明氏(6代



目備後屋)によって再現されたものです。鳥取の歴史・文化を楽しめる逸品から珍品までを一堂にご覧いただく貴重な機会です。ぜひご鑑賞ください。

(学芸課 来見田 博基)

■会期:平成22年1月16日(土)～2月14日(日)

■休館日:1月25日(月)

■会場:2階 第1特別展示室

■料金:個人当日/400円
個人前売/20名以上の団体/200円
大学生以下・70歳以上・学校教育活動での引率者・障害のある方・要介護者等およびその介護者/無料

■関連行事

○講演会「日本刀を楽しむ～刀研ぎと鞘づくりをみてみよう～」

平成22年1月30日(土)13時30分～15時30分

企画展示会場・講堂(要入場料)

講師 森井徳訓(一般財団法人日本刀文化振興協会評議員)、

森井鐵太郎(刀剣研師)、森井敦央(刀剣鞘師)

定員 200名

○講演会「鳥取県立博物館のコレクションについて—民俗資料を中心に—」

平成22年2月7日(日)14時～15時30分 講堂(無料)

講師 野地恒有(愛知教育大学教授)

定員 250名

コケスポット・栗谷周辺(鳥取市)

A rolling stone gathers no moss. (転石苔を生ぜず)という英語の諺があります。この諺は、イギリスではもともと、「じっくり腰を据えないと成功しない」という意味だったそうですが、アメリカでは、「活動的な人は常に新鮮」という意味でも使われます。イギリスではコケが付くのは良いことなのに、アメリカでは付けない方がよいようです。

対して日本には、庭園や盆栽のコケを楽しむ文化があります。コケの美しい日本庭園には大勢の観光客が集まりますし、近年ではコケ玉も花屋の店先でよく見かけます。6月に博物館で開催した自然講座「コケ・インテリアをつくろう!」にも、多数の方のご参加をいただきました。

鳥取は、世界的に湿潤な日本列島の中でも、四季を通じて降水量が多い

ので、コケが質・量ともに豊かです。また、鳥取市の市街地には、久松山などの山地がすぐ隣接しています。特に、久松山の南にほぼ平行に並んでいる、水道谷、栗谷、樗谿という3本の湿潤な谷は、絶好のコケ観察スポットになっています。県庁の裏手、栗谷町の興禅寺庭園(鳥取市指定名勝)では、ウマシゴケなどが見事な緑の絨毯をつく

っています。水道谷入り口の長田神社や栗谷の奥の栗溪神社でも、コマチゴケなど100種を超えるコケを見ることができます。市街地に隣接して、これほど豊かなコケが見られる場所は全国的にもめったにありません。5月には栗谷と博物館を舞台に日本蘚苔類学会などとの共催で、コケ植物についての特別実



胞子体をつけたコマチゴケ
コマチゴケの名はその美しさに由来する

習講座を開催しましたが、全国各地から集まった参加者が鳥取の豊かなコケの森に目を見張りました。

普段見過ごされがちなコケですが、意識して目を向けてみると、皆さんのまわりにも絶好の「コケ・スポット」が見つかるかもしれません。

(学芸課 有川 智己)

資 料 紹 介

ダニ類のバラタイプ標本

みなさんは「ダニ」というとどんな印象をもちますか? 人の血を吸い、病気をもたらすいやらしい虫でしょうか。量や食品に大量にわき、見るだけでぞっとする不快な虫でしょうか。野菜や果樹を枯らしてしまう有害な虫でしょうか。

嫌われ者のダニですが、このような被害を与える種類はごく一部です。大部分は、野生の動植物やカビ、落ち葉などとかかわりながら、ひっそりとくらしています。なお、ダニは「虫」と表現されたりしますが、厳密にはハチやチョウのような「昆虫」ではなく、クモに近い動物です。

さてこのたび、当館にダニ類の標本が寄贈されました。これは鳥取大学名誉教授の故・江原昭三博士による、67種200点の「バラタイプ標本」です。

「タイプ標本」というのは、新しく発見された生物を新種として発表する際、その基準とする標本のことです。そのう

ち「ホロタイプ」は、ひとつの種類につき世界でひとつだけ指定されます。これに準ずるものが「バラタイプ」で、「ホロタイプ」に万

一のことがあった場合に、その代わりとなるものです。これらは後世にわたって保存され、分類学的な研究を行なうときなどに、ふたたび参照されます。

江原博士は、実に205種ものダニを新種として記載・発表されました^{*}。そのうちの一部が当館に寄贈されたわけですが、その中には農林業上の害虫となる種類や、そのようなダニを食べる「役に立つ」ダニの仲間も多く含まれ、応用研究の上でも重要な役割をもっています。またイナバカブリダニやスナヒメハダニと



ダニ類のバラタイプ標本



スナヒメハダニ(バラタイプ標本:
1981年 9月1日、鳥取砂丘、江原昭三採集)

いった、鳥取県で初めて新種として発見された種類もあります。

これらは鳥取県の貴重な財産であり、ダニ類研究の基礎を支える重要な資料です。展示に出されることはなかなかありませんが、将来の研究に活用するため、大切に保管されるのです。

(学芸課 一澤 圭)

^{*}江原博士が記載したダニのリストは、鳥取県立博物館研究報告 第46号 (URL:<http://sie5.trii-info.co.jp/museum/dgjal/report/5/>) でご覧いただくことができます。

太白、月を貫く - 『時範記』に記されなかった天体现象 -

平安時代末に編纂された歴史書『本朝世紀』には、承徳3年3月4日(グレゴリオ暦で1099年4月3日)の出来事として次のように記されています。

太白、月を貫く

「太白」は宵の明星(金星)のこと。「月を貫く」ように見えたことから、金星が月に隠される「星食」の記録と考えられます。

これを天体シミュレーションソフト「ステラナビゲーター8」(Astro Art社製)で確認したのが右図です。日没後の西の空で金星が月(月齢3.7)の左側を掠めるように通過しており、実際は星食にはなりません(最接近は19時38分、金星と月との離角は約20秒、高度は約24度<京都、因幡国府ともほぼ同じ>)。霞や黄砂等で観測条件が悪く、見誤ったのか

も知れません。

ところでこの日、因幡守・平時範が国府に滞在していました。彼の日記『時範記』には着任から帰京までの日々の出来事が記されていますが、3月4日は何も記されていません。当時の貴族は、関与した事件の経過と対応を前例として子孫に伝えることを目的として日記をつけたため、この天体现象も話題になれば記載されたものと思われる。

話題に上らなかったのは、当時天体の観測結果とその解釈が重要機密とされたことも影響しています。天体现象は未来の予兆と考えられたため、観測機器や天文書の私有は禁止され、都の天文博士が観測を行い、星食、彗星などの天変は天皇だけに報告されました。

天候不順でなくとも、月や金星に注意を払った人は少なかったでしょう。

『万葉集』には「夕星も 通ふ天道をいつまでか 仰ぎて待たむ 月人壮士」と、金星(夕星)と月を見ながら恋人を想う歌が載せられていますが、赴任したばかりの時範の近くにはこうした人もいなかったようです。

(学芸課 石田 敏紀)



月と金星の最接近 StellaNavigator/AstroArts Inc.

コ ラ ム

江戸時代の地誌にみる古墳

古墳時代後期の古墳は、多くの場合「横穴式石室」と呼ばれる埋葬施設を墳丘内部に設けています。横穴式石室は、入口をふさぐために積んだ石などを取り除けば追葬できる構造ゆえに、ふさいだ部分が偶然に開いて石室内が露わになることがあります。こうして開口した横穴式石室を、人々は何のようなものと考えていたのでしょうか。江戸時代の鳥取の地誌「因州記」に、興味深い記述がありました。

「因州記」は、鳥取藩士である野間義学(宗蔵)[生年不詳-享保17(1732)年]が記したもので、「道路之巻上・下」など4冊に分かれています。「道路之巻」は、鳥取城下とその周辺の地誌をまとめたもので、街道周辺の絵と特徴的な場所などの説明が書かれています。この中に、法美郡百谷村と滝山村(現在の鳥取市百谷と滝山)の間から東南方向

の山の尾根に、多数の「石窟(岩窟)」があると記されています。その数は「不可計」とされ、さらに周辺の山上、尾根、谷などにも多数あるとされています。義学は一つの尾根にある9基を観察し、考察を加えています。石窟はいずれも入口が南にあること、石を積んで造られていること、内部の大きさは大小があること、外側には土が丸く盛られていること、などが記録されています。

この「石窟」が何のために作られたのか、「昔の人の住居」、「火雨を避けるためのもの」、「米を隠す穴」など世間に流布するさまざまな説を紹介し、義学はそれらについて一々不適當な点を挙げ、否定しています。そして、検討の結果、「石窟」は「人ヲ葬ル地(=墓)」として築かれたとしています。この結論も確たる根拠があるとは言えませんが、豊富な知識と観察力が目を引きます。



因州記に描かれた「石窟(岩窟)」

ところで、「因州記」に描かれたとおぼしき場所には、現在これほど多数の古墳は確認されていません。義学の時代以降に壊されてしまったのか、それとも知られずに埋まっているのかは明らかではありませんが、現在は知られていない古墳の存在を示す証拠ともいえ、注目されます。(学芸課 東方 仁史)

近代美術常設展示

山を描いた画家 伊谷賢蔵

この秋、当館では所蔵品を中心とした展覧会「山を描いた画家 伊谷賢蔵」を開催します(会期: 10/4~11/10)。

伊谷賢蔵(いだに・けんぞう、1902年~1970年)は、鳥取市に生まれ、京都を中心に活躍した洋画家です。伊谷は昭和初期に画家として活動を始め、戦時中は従軍画家として中国北部に滞在し、戦後は制作の一方で美術団体「行動美術協会」の設立と運営に力を尽くしました。45年にわたる画歴の中で伊谷は様々なテーマの絵を手がけていますが、なかでも、1950年代以降に日本の山々を描いた作品が高く評価されています。彼が好んで描いたのは、故郷の大山をはじめ、九州の阿蘇山や桜島、

信州の磐梯山など、険しい岩肌を持つ火山性の山地でした。

さて、これまでの研究では、伊谷が山の絵を描き始めたのは、霊長類学者である長男が1953年に大分県に赴任したことがきっかけだったと考えられてきました。確かに、伊谷はその頃、大分県を訪れて由布山や万年山の絵を数多く描いています。

しかし、この数年間に新たに発見された油彩画やスケッチ、文章などを調査したところ、彼が最初に山への関心を抱いたのは、従軍画家として中国に渡った1939年から1943年の間であることがほぼ明らかになりました。彼は、戦争という非常事態下にありながらも、中



伊谷賢蔵《中国風景》
1940年頃、油彩・カンヴァス、当館蔵

国の自然や歴史に強い感銘を受け、その風景を描くようになったのです。

本展では、従軍画家時代に描いた山景画と、後年に日本の山を描いた作品を共に展示することによって、伊谷が長年にわたって山というテーマに取り組み、深めていったさまをご紹介します。

(美術振興課 竹氏 倫子)

新 収 蔵 品 紹 介

前田寛治《赤い裸婦》

前田寛治はその短い生涯において数多くの裸婦を手がけました。横臥、伏臥、腰掛けのポーズなど様々な裸婦像からは、画家としての研究の痕跡を見て取ることが出来ます。1900年代初頭に日本で描かれた裸婦は、西洋人に比べ胴長で手足が短い日本人の体型的特徴から、どこか不自然でごちない類型的な構図のものが中心でした。多くの画家が日欧のモデルの違いに苦しみ、あえて西洋風にデフォルメする傾向が強い中で、前田は日本人の体型を欠点とせず、ありのままを積極的に描きました。

昨年度購入した《赤い裸婦》は、1928(昭和3)年、《裸体》というタイトル

で「1930年協会展」に出品された作品です。この年は折しも前田が最も精力的に活動した時期にあたり、《横臥裸婦》《裸婦》《棟梁の家族》などの代表作が生まれました。ベッドの上に腰掛けて座る裸婦を薄描きで描いた本作は、小品ながら前田の特色が全面に表れています。抑制された無駄のない筆致は画面全体に緊張感を与え、赤、青、白、褐色など落ち着いた色彩のコントラストは画面に奥行きと広がりをもたらしています。またここでは前田が写実理論として説いた量感や実在感も見ることができ、様々なモチーフを異なる描法によって表現し続けた前田の技量を示す作品

の一つといえます。

(美術振興課 林野 雅人)



前田寛治《赤い裸婦》
1928年、油彩・カンヴァス、51.4×61.0cm、当館蔵

美術常設展

2F 近代美術展示室 テーマによる企画展示を行います。

<p>■山を描いた画家 伊谷賢蔵 10月4日(日)~11月10日(火) 鳥取市出身の洋画家・伊谷賢蔵の作品の中から、彼の画業を代表する主題となった「山」を描いた絵画を紹介します。</p>	<p>■鳥取ところどころ モチーフとしての鳥取の風景 1月23日(土)~2月21日(日) 当館が収蔵する館蔵品を中心に、鳥取県内の風景を描いた作品と描かれた場所を紹介します。</p>	<p>■若き日の鳥取の画家たち 3月5日(金)~4月4日(日) 当館が収蔵する館蔵品を中心に、様々な作家や作品の影響を受けながら成長する若き日の鳥取の画家たちを紹介します。</p>
---	---	--

1F 美術常設展示室

鳥取県ゆかりの江戸時代から現代までの美術作品を展示しています。

鳥取の美術3	9月17日(木)~11月29日(日)
鳥取の美術4	12月2日(水)~2月14日(日)
鳥取の美術5	2月17日(水)~4月25日(日)

※途中展示替のため、以下の日は休室します。
10月26日(月)、3月23日(火)

山陰海岸のタカラガイ

鳥取県に面する日本海沿岸には、対馬海流と呼ばれる暖流が西から東へ流れています。このため、山陰海岸には特に秋から春にかけて暖流域に生息する多くの貝類が季節風などの影響により海岸に打ち上げられます。

おもに暖かい海で暮らしている貝類には、タカラガイの仲間・イモガイの仲間・フデガイの仲間などがあります。その中でも、タカラガイの仲間は貝殻の表面につやがあり模様も美しく、コレクションの対象としてとても人気があります。その美しさと貴重さから、古代の中国などでは、キイロダカラというタカラガイを貨幣(お金)として使っていたそうです。「貝」という漢字はタカラガイが元となった象形文字ですが、今でも金銭に関する漢字の多くは部首に「貝」が使われています。

日本には約90種類のタカラガイの仲間が確認されています。そのうち、沖縄では約80種類が見つっていますが、日本海沿岸では山口県で約30種類、山形県で約5種類と北上するにつれて種類数が減ります。それでは鳥取県には何種類のタカラガイがいるのでしょうか。

鳥取県の海岸に打ち上げられたタカラガイは、これまで淡い褐色の貝殻に小さな白い点が雪のように見えるハツユキダカラや腹面が黒いクチグロキヌタなど11種類が見つっています。しかし、タカラガイに関して、まだわからないことも多いので、山陰海岸学習館の野外観察会「浜辺の宝(貝)さがし」では珍しいタカラガイ探しを開催します。タカラガイは打ち上げられるまでに砂や石などでこすれるため、表面のつやがなくなっているものがほとんどですが、運よく、つやのある美しい貝殻を見つけられることもあります。見つけたときの感激はひとしおです。また、打ち上げ貝と5mm以下の小さな微小貝の色や形を楽しむ野外観察会も計画していますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。

地球温暖化による環境問題が取りざたされているところであり、タカラガイなど熱帯性貝類が北上してきていると言われています。山陰海岸では見つかっていない南方の種類を発見するのはあなたかもしれません。(山陰海岸学習館 竹林 慶謹)



山陰海岸で採集されたタカラガイ

■ 普及活動一覧(10月～3月)

《自然講座》「石と砂の工作でジオを学ぶ」

10月11日(日) 13時～15時

場所/山陰海岸学習館 体験学習室

対象:小学生～一般(小学生は保護者同伴)

定員:30名(要申込・先着順) 申込期間:9/27～

《野外観察会》

「打ち上げ貝拾い ～さまざまな形や色を楽しむ～」

11月8日(日) 9時～12時

場所/羽尾海岸

対象:一般(小学生以下は保護者同伴)

定員:30名(要申込・先着順) 申込期間:10/25～

《自然講座》「海藻おしぼりでオリジナルカードをつくる」

12月20日(日) 13時～15時

対象:一般(小学生以下は保護者同伴)

定員:30名(要申込・先着順) 申込期間:12/6～

《野外観察会》「浜辺の宝(貝)さがし」

3月28日(日) 9時～12時

場所/山陰海岸学習館周辺の海岸

対象:一般(小学生以下は保護者同伴)

定員:30名(要申込・先着順) 申込期間:3/14～

鳥取県立博物館付属 山陰海岸学習館

■開館時間:9時～17時(入館無料)

■休館日:原則として月曜日(祝日の場合は翌平日)

【お問い合わせ】〒681-0001 鳥取県岩美郡若美町牧谷1794-4

電話・FAX:0857-73-1445

E-mail: saninkaigan@pref.tottori.jp

お知らせ

平成22年の春、 山陰海岸学習館の展示室がリニューアルオープンします！

「日本ジオパーク」に認定された山陰海岸ジオパークは、現在「世界ジオパーク」認定に向けた取組を行っています。ジオパークとは、貴重で美しい地質遺産のある自然公園のことです。これを契機に自然豊かな山陰海岸のすばらしさを、国内はもとより世界へ知っていただきたいものです。

「山陰海岸学習館」では施設のリニューアルに併せて展示を一新し、「世界ジオパーク」を目指す山陰海岸の貴重な地形・地質はもちろんのこと、そこに暮らす豊かな生物についても分かりやすく紹介しようと準備しています。また、「見て、さわって、調べる」ことのできる体験型の展示も取り入れ、県民のみなさんに楽しく学びながら、自然を大切にすることを心がけていただけるよう一層の機能充実を図ることとしています。

来春新しく生まれ変わる「山陰海岸学習館」にご期待ください。

※ 現在、通常どおり開館しています。リニューアル期間中の閉館予定などは、その都度お知らせします。期間中、お客様にはご不便をお掛けいたしますが、あらかじめ御承知ください。



2009 10 OCT.	《アートシアター》 「巧の世界 色鍋島・柿右衛門濁手」	■10月3日(土)14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《ワークショップ》 パブリックアート発見！チャリンコラリー	■10月10日(土)10時～16時／会議室 ■どなたでも／定員50名(要申込・先着順) ※申込期間9月26日～
	《天体観望会》 秋の星を見る会	■10月10日(土)18時30分～20時30分／前庭 ■どなたでも(申込不要)
	《野外観覧会》 きのこを調べる会	■10月10日(土)10時～14時 ／湊山公園・米子児童文化センター ■一般／定員40名(要申込・先着順) ※申込:米子児童文化センターへ(0859-345455) 9月17日～
	《ギャラリートーク》 山を描いた画家 伊谷賢蔵	■10月17日(土)14時～14時30分 ／近代美術展示室 ■中学生～一般／定員なし ※観覧料が必要です
2009 11 NOV.	《講演会》 21世紀を羽ばたくための学習法	■10月18日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名
	《野外観覧会》 ドングリをしらべよう！	■10月24日(土)9時～12時／博物館周辺 ■主に幼稚園・小学校の先生向け ／定員40名(要申込・先着順) ※申込期間:10月1日～
	《アートセミナー》 アクションペインティングとその展開	■10月24日(土)14時～15時30分／会議室 ■一般／定員40名(先着順)
	《アートシアター》 「巧の世界 鉄釉陶器・備前焼」	■10月31日(土)14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《アートセミナー》 「楊谷と元旦について」	■11月7日(土)14時～15時30分／会議室 ■一般／定員40名(先着順)
	《アートシアター》 「匠の世界 色絵磁器・鬼瓦」	■11月14日(土)14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《歴史講座》 とっとり城下町ウオークin寺町	■11月21日(土)9時30分～12時 ／鳥取市寺町周辺 ■一般／定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:10月19日～
	《ギャラリートーク》 前田昭博 白瓷の造形 アーティストトーク	■11月21日(土)14時～15時／企画展会場 ■中学生～一般／定員なし ※企画展観覧料が必要です
	《講演会》 「鳥取の埴輪」	■11月22日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名
	《ギャラリートーク》 前田昭博 白瓷の造形 トークセッション	■11月28日(土)14時～14時30分／企画展会場 ■中学生～一般／定員250名 ※企画展観覧料が必要です
2009 12 DEC.	《ギャラリートーク》 前田昭博 白瓷の造形	■12月5日(土)14時～14時30分／企画展会場 ■中学生～一般／定員なし ※企画展観覧料が必要です
	《ギャラリートーク》 前田昭博 白瓷の造形	■12月12日(土)14時～14時30分／企画展会場 ■中学生～一般／定員なし ※企画展観覧料が必要です
	《民俗講座》 鳥取県の民話を聞く会(2)	■12月13日(日)14時～15時 ／歴史民俗常設展示室(復元民家内) ■一般／定員なし ※観覧料が必要です
	《アートセミナー》 「前田昭博の白瓷を分析する」	■12月19日(土)14時～15時30分／会議室 ■一般／定員40名(先着順)
2010 1 JAN.	《アートシアター》 (アニメ)「木を植えた男」	■12月26日(土)14時～14時30分 15時～15時30分(2回上映)／講堂 ■どなたでも／定員250名(先着順)
	《アートシアター》 「ジャクソン・ポロック」	■1月9日(土)14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 新収蔵品展 -歴史系学芸員のオススメ100選-	■1月16日(土)11時～12時 ／2階第1特別展示室 ■一般／定員なし※企画展観覧料が必要です

2010 1 JAN.	《アートシアター》 「キュレーター:ヤン・フォート」	■1月16日(土)14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《講演会》 「明治・大正の鳥取」 -新収蔵資料より-	■1月17日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名(先着順) ※企画展観覧料が必要です
	《ギャラリートーク》 鳥取とところどころ -モチーフとしての鳥取の風景-	■1月23日(土)14時～14時30分 ／近代美術展示室 ■中学生～一般／定員なし※観覧料が必要です
	《ギャラリートーク》 新収蔵品展 -歴史系学芸員のオススメ100選-	■1月23日(土)11時～12時 ／2階第1特別展示室 ■一般／定員なし※企画展観覧料が必要です
	《講演会》 「新収蔵資料にみる鳥取藩士の実像」	■1月24日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
2010 2 FEB.	《講演会》 「日本刀を楽しむ ～刀研ぎと鞘づくりをみてみよう～」	■1月30日(土)13時30分～15時30分 ／講堂・企画展示室 ■一般／定員200名※企画展観覧料が必要です
	《ワークショップ》 3D 絵画をつくろう！	■1月30日(土)14時～16時／会議室 ■どなたでも／定員20名(要申込) ※申込期間1月16日～
	《講演会》 「鳥取藩の武家屋敷 -新収蔵資料より-	■1月31日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 新収蔵品展 -歴史系学芸員のオススメ100選-	■2月6日(土)11時～12時 ／2階第1特別展示室 ■一般／定員なし※企画展観覧料が必要です
	《アートシアター》 「マリオ・ボッタ」	■2月6日(土)14時～14時30分／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《講演会》 「鳥取県立博物館のコレクションについて -民俗資料を中心に-	■2月7日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名
	《歴史講座》 古文書の修復を体験しよう	■2月11日(木・祝)10時～12時、 14時～16時(2回開催)／会議室 ■一般／定員各回10名(要申込) ※申込期間1月17日～
	《ギャラリートーク》 新収蔵品展 -歴史系学芸員のオススメ100選-	■2月13日(土)11時～12時 ／2階 第1特別展示室 ■一般／定員なし※企画展観覧料が必要です
	《アートセミナー》 「イラストレーター 毛利彰 作品の魅力」	■2月13日(土)14時～15時30分／会議室 ■一般／定員40名(先着順)
	《アートシアター》 「ドクメンタ9」	■2月20日(土)14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
2010 3 MAR.	《ワークショップ》 リサイクル糸巻きランプを作ろう！	■2月27日(土)14時～16時／会議室 ■どなたでも／定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:2月13日～
	《アートシアター》 「モデルカップル」	■3月6日(土)14時～15時50分／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
	《ギャラリートーク》 若き日の鳥取の画家たち	■3月13日(土)14時～14時30分／近代美術展示室 ■中学生～一般／定員なし ※観覧料が必要です
	《ワークショップ》 アートカルタをつくろう！	■3月20日(土)14時～16時／会議室 ■どなたでも／定員20名(要申込・先着順) ※申込期間:3月6日～
	《アートシアター》 「フランシス・ベーコン」	■3月27日(土) 14時～15時／講堂 ■一般／定員250名(先着順)
《講演会》 「イナバの国の誕生」	■3月28日(日)14時～15時30分／講堂 ■一般／定員250名(先着順)	

※特に記載のないものは、申込不要、無料です。※申込み・お問い合わせは学芸課(0857-26-8044)または美術振興課(0857-26-8045)へ。小学生以下は保護者同伴。

鳥取県立博物館ニュース MUSEUM PRESS No.8

平成21年(2009年)9月30日発行
編集・発行 鳥取県立博物館

住所 〒680-0011 鳥取市東町2丁目124番地
TEL 0857(26)8042(代)
FAX 0857(26)8041
URL <http://www.pref.tottori.jp/museum/homepage.htm>
E-mail hakubutsukan@pref.tottori.jp

JR鳥取駅からバスで

100円バス「くる梨」青コース

「15仁風閣・県立博物館」下車すぐ

ループ麒麟獅子Aコース(土・日・祝日のみ)

「4鳥取城跡」下車すぐ

砂丘・湖山・賀露方面行

「西町」下車約400m

市内回り岩倉・中河原方面行

「わらべ館前」下車約600m

■JR鳥取駅からタクシーで約10分
■当館駐車場21台駐車可能(なるべく公共交通機関をご利用ください)

